

血液サラサラの薬を飲んでいるひとは、出血すると止血しにくい。だから、患者さんの頭の中に出血でもすれば、患者さん以上に不安がる医者だっている。

76歳のK子さん。約10年前に、脳梗塞になった。以来、再発予防に、抗血小板薬をのんでいる。血液サラサラの薬である。2週間前に、つまずいて前頭部を打った。意識はなくなっていない。ぶつけたところが痛いだけだ。そのまま様子をみていた。

ずっと変わりはなかったが、3、4日前から、なんとなくものが白っぽく見えるようになったと訴える。すぐに、頭のMRI（磁気共鳴画像）の検査をする。と、右の後頭部に、なんと、出血しているではないか。脳挫傷と硬膜下血腫ができています。だが、ひどい頭痛もなければ、手足の麻痺もない。軽い視野異常だけなのである。

でも、Kさんは、頭を打った後も抗血小板薬を飲み続けていたのだ。脳挫傷や出血は、彩社はもっと小さかった。が、出血が続いたせい、新たに血腫ができたために、脳の症状が出てきたのかもしれない。

が、そんな詮索はさておいて。まずは、抗血小板薬を中止しなければ。

もっとも、薬を止めても、止血しにくいという作用は1週間は続くのである。その間に、出血が大きくなって症状が憎悪すれば手術だ。が、止血が難しい脳の手術はいへんなこともよく知っている。と、小さな医者は、眠れぬ夜が続くのであった。

でも、大丈夫。3週間後の再検査では、血腫の増大はなく、脳挫傷も軽快していたのである。そうだ。血液サラサラの薬を飲んでるひとが、頭を打って出血していても、どんどん出血が続くとは限らない。経験上、憎悪するのは、せいぜいが、10人にひとりだろうか。と、すっかり強気になって、今夜こそぐっすり眠れそうである。

（石黒修三＝いしぐろクリニック・脳神経

外科医…1/14北國新聞掲載）